生活管理の実態と身体発育に関する調査

神谷　齊、乾　拓郎、羽根靖之

我々「小児腎疾患の進行阻止と長期管理のシステム化に関する研究」の分担研究として、国立療養所における腎疾患児の生活管理の実態と身体発育に関して、食事、運動、精神面での問題行動、施設内感染、性の問題、進学就職、養護学校教育の実態について調査を行なった。

小児腎疾患　　生活管理

1．はじめに

我々は分担研究として国立療養所における腎疾患児の生活管理の実態と身体発育に関してアンケート調査を担当した。アンケートに協力していただいた病院は36施設である（表１）。昭和62年度に入院した腎疾患患者総数は 872名であった。入院患者を腎疾患のみの病棟に受け入れている施設は 4施設（11.4％）のみで、ほとんどの施設では混合病棟で管理されていた。腎疾患患者の平均入院期間は16.5±14.7ヵ月で、最長６年６ヵ月であった。養護学校の併設されている所は34病院（94.4％）であった。

2．食事について

1)腎疾患特別食事戔は１病院を除き他のすべてで作成されていた。

2)腎疾患特別食から普通食への変更基準はネフローゼでは寛解導入後、あるいはステロイド漸減期に、腎炎では急性期以降又は安定期と決めている病院が多く認めていた。

3)患児が腎疾患特別食につき不満に思っている点としては、他疾患児の食事と比較した場合、塩分制限の場合であった。

3．運動について

1)安静度、運動レベルの設定がされている病院は28(77.8%)であった。

2)安静療法についてはほとんどの病院で急性期以外は不要とし、絶対安静は必要がないとしていた。

3)体育の授業にはほぼ参加させているとの回答があったが、内容の詳細は今回検討しなかった。なお、安静、運動レベルに関しては必要とする意見の他に科学的根拠のない基準は不要とする意見があった。

4．精神面での問題行動について

1)長期入院が原因に精神的問題が現われたと考えている症例があると回答しているのは22病院(62.9%)であった。事例としてはチック、離院、自殺企図、退院

国立療養所三重病院

拒否などであった。

2)問題行動が生じた時の対応は主として主治医が中心となり対処されていた。

3)心理指導員を有している施設は50%であった。

4)長期入院させることに関する主治医の意見としては親が過保護になり甘えが強くなる、退院への不安が強くなるなどの理由での悪影響と考えている場合と、反対に病気への認識が高まる、友達との協調性、自立性が養われるから良しと考えている場合が認められた。

5)長期入院によるストレスに対する対策としては各施設、親との面会頻度、行事、リクレーション、面談などを増やすなどして病棟生活を明るくする方向へもっていこうと各病院とも、努力している。

5．施設内における感染について

1)施設内流行感染の中で水痘は原疾患を悪化させるケースが多く、死亡例も報告されており、今後の対応策の検討が必要と考えられた。

2)入院患者への予防接種を実施している病院は14（40%）個所で、その内容としては水痘を行なっている病院が多かった。

3)予防接種が原因で病態が悪化した例は報告されなかった。

4)水痘の予防接種は絶対必要だとする意見は多かったが、施設によって考え方が違い、接種基準の作成が必要と思われた。

5)感染を予防するため、うがい、手洗いの施行、個室への隔離などが実施されていた。

6．性教育について

1)性の問題は重要であり、どのように指導していけばよいか困っているところも多く認められた。院内で性教育のプログラムや指導を行なっている病院は6（16.7%）のみであった。

2)入院患児の性に関する問題行動は51.4%と約半数の施設で経験されていた。問題行動の事例としては体などを触るなどの女児へのいたずら、下着泥棒などで中には妊娠した例もある。

7．進学、就職について

1)中学卒業後の進路

	60年度	61年度	62年度
養護学校高等部	12(20.0%)	17(27.0%)	7(12.1%)
普通高校	35(58.3%)	35(55.6%)	38(65.5%)
職業高校	7(11.7%)	2(3.2%)	4(6.9%)
各種学校	1(1.7%)	3(4.8%)	2(3.4%)
就職	3(5.0%)	2(3.2%)	0
その他	2(3.3%)	4(6.2%)	7(12.1%)
計	60	63	58

表からわかるように、ほとんどの腎疾患児は進学を希望していた。

2)病院施設内又は併設されて高等部をもっている病院は58.8%であった。

3)養護学校高等部卒業後の進路

	60年度	61年度	62年度
大学	5(15.6%)	5(17.2%)	1(3.2%)
短大	0	0	2(6.2%)
各種学校	12(37.5%)	9(31.0%)	9(30.0%)
就職	5(15.6%)	6(20.7%)	4(13.3%)
家庭療養	2(6.3%)	1(3.5%)	2(6.7%)
その他	8(25.0%)	8(27.6%)	12(40.0%)
計	32	29	30

養護学校高等部卒業後大学に進学する例は少ないようであったが、内容の詳細な検討が必要と思われた。

8．養護学校の教育の実態

長期欠席で学力に差がある場合の対応策として補習、訪問学習、学力別学習、テレビによる指導などを行なっているところが多かった。また欠席時、補習、訪問指導を受けられるようになっている病院は72.7%であった。

9．おわりに

我々の分担した小児腎疾患患者に対する日常生活管理における問題点の調査か

ら出た問題をまとめた。各施設とも類似した点が多く、ネットワークづくりによって国立療養所が中心となり指針を出していかなければならない。

（表１）

国立療養所医王病院	国立療養所川棚病院
国立療養所千石荘病院	国立療養所西奈良病院
国立療養所千葉東病院	国立療養所和歌山病院
国立療養所新潟病院	国立療養所宇多野病院
国立療養所秋田病院	国立療養所道北病院
国立療養所南岡山病院	国立療養所広島病院
国立療養所再春荘病院	国立療養所原病院
国立療養所松江病院	国立療養所南九州病院
国立療養所西多賀病院	国立療養所東佐賀病院
国立療養所香川小児病院	国立療養所福島病院
国立療養市所恵那病院	国立療養所山形病院
国立療養所宮崎東病院	国立療養所兵庫中央病院
国立療養所中部病院	国立療養所神奈川病院
国立療養所鈴鹿病院	国立療養所岩木病院
国立療養所足利病院	国立療養所西別府病院
国立療養所西札幌病院	国立療養所天竜病院
国立療養所南京都病院	国立療養所東松本病院
国立療養所下志津病院	国立療養所三重病院

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

我々「小児腎疾患の進行阻止と長期管理のシステム化に関する研究」の分担研究として、国立療養所における腎疾患児の生活管理の実態と身体発育に関して、食事、運動、精神面での問題行動、施設内感染、性の問題、進学就職、養護学校教育の実態について調査を行なった。